

平成23年度 JCOMM賞の受賞者発表



JCOMM実行委員会では、平成23年4月15日までにご応募・ご推薦をいただいた取り組み・研究について、厳正に審査し、プロジェクト賞2件、デザイン賞2件をそれぞれ平成23年度JCOMM賞として選定いたしました。対象者には、第六回JCOMMにて表彰を行います。また、会期中には受賞内容の展示も行われます。

プロジェクト賞

- 「金沢市内の小学生を対象とした金沢版交通環境学習の継続的取り組み」
(金沢市都市政策局交通政策部歩ける環境推進課、交通エコロジー・モビリティ財団、株式会社計画情報研究所、高山純一)
- 「観・感・環、「ikeko」で発見！いけだのまねきエコ～大阪池田市の地域通貨「ikeko」と連携したMMと、一連のMMパッケージ展開～」
(特定非営利活動法人いけだエコスタッフ、池田市モビリティ・マネジメント検討会事務局(池田市市民生活環境にやさしい課、(株)オリエンタルコンサルタンツ)、池田新エネ推進協議会)

デザイン賞

- 「広報おおたけ」
(大竹市市民生活部市民課、大竹市総務企画部企画財政課)
- 「広島市のノーマイカーデー運動支援WEB サイト『マイカー乗るまあデーくらぶ』」
(広島市道路交通局都市交通部、株式会社福山コンサルタント(中村良枝、金子俊之、小笹俊成、斎藤詩織))

JCOMM賞についての情報は、HPにも掲載しております。各賞の概要や評価基準・詳細等はHPをご覧ください。
(<http://www.jcomm.or.jp/>)



開催地企画会場の
八戸ポータルミュージアム「はっち」



第六回JCOMMは、東日本大震災の被災地の一つの都市である青森県八戸市にて、七月十五日(金)、七月十六日(土)に八戸ポータルミュージアム「はっち」、八戸グランドホテルで開催いたします。

今回のJCOMMには、例年の(継続教育)プログラムとして申す。また、昨年度と同様に、今年度のJCOMMは、土木学会CPD参加を待ちしております。



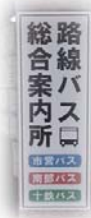
日本モビリティ・マネジメント会議
ニュースレター

Vol.20 ● 2011.6.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニュースレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
大阪大学 松村研
mail: info@jcomm.or.jp
MMに関連する会告掲載希望やご意見等、
随時受け付けております。

- 1) 氏名、2) 所属・勤務先、3) 連絡先(住所・e-mail・メールアドレス)をJCOMMHP上の参加申込フォームより送信してください。
- ▼参加申込締切 七月八日(金)
- ▼参加費(資料代含む) 三千元

参加申込方法



八戸市の
モビリティ・センター

請し、認定を受けました(両日参加の場合3名単位)。
ぜひご参加の上、MMの情報交換の場としてご利用ください。

第六回 JCOMM in 八戸 プログラム

● 1日目 7月15日(金)

09:30-	レジストレーション
10:00-12:00	開催地企画 会場：八戸ポータルミュージアム はっち
13:00-15:30	オープニングセッション 開催挨拶・基調講演・JCOMM賞各賞授賞式 ・基調講演者：藤井聡(京都大学教授) 報告：仙台市、八戸市議会港湾振興・震災対策特別委員会 会場：八戸グランドホテル、以下同会場
15:40-16:50	ポスター発表 A(18編)
17:00-18:00	口頭発表 1(3編) 通勤 MM
18:30-	懇親会

開場時間中、平成23年度JCOMM賞受賞者の展示も同時に行います。

● 1日目 7月16日(土)

08:30-	開場
09:00-10:00	口頭発表 2(3編) MMによるマクロ効果
10:10-12:10	特別セッション「震災とモビリティ」 10:10-10:25 東日本大震災後現場での緊急対応について (東北地方整備局道路部長 川瀧弘之) 10:25-10:40 東日本大震災後の公共交通の状況について (横浜国立大学 中村文彦) 10:40-10:55 「帰宅難民」について (東京大学 廣井悠) 10:55-11:10 防災交通まちづくりについて (関西大学 宇都宮浄人) 11:10-11:25 大震災後の交通エネルギー消費行動のアンケート調査について (サーベイリサーチセンター) 11:25-12:10 全体討論
13:30-14:30	口頭発表 3(3編) “まちなか活性化”と MM
14:30-15:40	ポスター発表 B(16編)
15:40-16:40	口頭発表 4(3編) 非都市部での高齢者 MM
16:40-17:00	クロージングセッション

*ポスター発表、口頭発表、特別セッションの詳細は、JCOMMのHPをご参照下さい。(http://www.jcomm.or.jp/)

ニッポンのMM

第十五回 モビリティ・センターを核としたMM

公共交通、特にバスの利用者が減少傾向にあることは、もはや多くの地方都市の「残念な常識」となっています。

青森県八戸市では、このような現状を打破すべく、市営バスと民間バスの共同運行により経費削減と利便性向上を同時に実現する取り組みや、系統番号の再編、市内バス路線のマップ作成など、多様な施策を展開してきました。

そして、平成二十二年度、市内中心部において、利用者向けには「市内の全路線バス情報を扱う『路線バス総合案内所』」として「八戸中心街ターミナルモビリティセンター」（略称：モビセン）が開設されました（緊急雇用創出事業を活用）。

モビセンスタッフは、窓口での案内だけでなく、一部の路線バス車内や利用者の多いバス停では、高齢者などの乗降をサポートする「アテンダント」としても活躍し、在りし日の車掌さんを目指した、安心できるバス環境づくりに



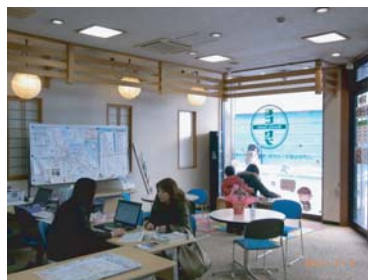
八戸中心街ターミナル モビリティセンター

▲モビセンロゴ

も取り組んでいます（現在休止中・八月再会予定）。

そして、動機付け冊子「バス利用のススメ」と居住エリア別「お近くのバス停時刻表」を用いた行動プランアンケートでは、回答者の「バス利用回数が平均で一〇%増加」という効果も得ることができました。

バス利用者減という「残念な常識」を覆し、ひいてはバスに限らず地域の「モビリティ」を「マネジメント」する核「センター」へと成長することを目指し、継続的な運営を行っていきたくと考えています。



▲モビセンでの案内の様子

イベント報告

欧州モビリティ・マネジメント

会議報告

第十五回欧州モビリティ・マネジメント会議（ECOMM）が、南フランスのトゥールーズ市にて開催されました。この会議で特に印象的だったのは、さまざまな私たちの発表の場を設け、コミニケーションを活性化させる工夫が行われていた点です。今回は「べちゃくちや」セッションを紹介いたします。

昨年、第十四回ECOMMからプログラムに「PECHA KUCHA」セッションというセッションが設置されていました。普通にローマ字読みすると「べちゃくちや」ですが、辞書で引いても載っておらず、意味がわからないまま今回初めて聴講してみました。

このセッションは九十分で六人の発表があり、最初に一人あたり六分四十秒の口頭発表を行い、そのあと同じ部屋の後方でポスターセッション、という

JCOMM 法人会員紹介

VOL.5 株式会社 新日本コンサルタント

NIIX新日本コンサルタントは、道路・橋梁・下水道・ランドスケープ・都市計画・測量といった主に土木分野を中心としたコンサルティング業務を通じて、地域社会への貢献を目指している総合建設コンサルタントです。特に、社会資本のこれからのニーズとして捉えた「ストックマネジメント」、「減災・防災」、「低炭素社会づくり」の3分野を重点事業として取り組んでおります。

M.M.関連の取り組みは、「低炭素社会づくり」の一環として取り組んでお

構成になっています。口頭発表のパワーポイントは一スライドあたり約二十秒で自動的に切り替わり、計二十枚で構成するという制約付きです。この口頭発表で概要を聴衆にコンパクトに伝え、続くポスターセッションで質疑を行うのがねらいのようです。なぜ「べちゃくちや」なのでしょう。

素朴な疑問をECOMMオーガナイザーの一人であるポツシュ氏にぶつけてみたところ、べちゃくちやセッションは、二〇〇三年に東京でポツシュ氏がTRB（※）のTDM担当だったエリック氏と雑談しているときに思いついたのだそうです。学会で口頭発表が六、七本続くと聴講するのもしんどいですが、べちゃくちやセッションなら短時間で集中して聞けるのがメリットです。ただし質疑の時間が短いので、そのあとにポスターで発表者や取り取りできるようにしたのだそうです。TRBポスターセッション前の口頭発表は、ポスターの宣伝という意味合いがります。

当社でのMMに関わった事例としては、近年のLRT整備で都市交通の質を向上させた富山市で昨年度から始まった「とやまレールライフ・プロジェクト」と称したMM事業のお手伝いをさせていただいたことでもあります。昨年度のプロジェクトは、①ラジオ番組組によるMM、②電車・バス沿線居住者対象のTFPの実施、③フォーラムの開催、④ホームページ（http://www.toyama-rail-life.jp）開設による情報発信の4つの取り組みを行いました。郵送によるTFPでは回答率が50%を越えるといったふうに、大きな反響があ



べちゃくちやセッションのイメージロゴ

※TRB (Transportation Research Board) は米国の交通関連学会、毎年1月に開催される年次報告会では世界最大規模。

強いですがECOMMでは口頭発表が主でポスターはそのあとの質疑を補助するという意味合いが強いようです。気になる「べちゃくちや」はやはり日本語で、エリック氏が話していた言葉をそのまま使っているとのことでした。日本語の「べちゃくちや」が、米国人から欧州に伝わってセッション名になっていたのでした。なお、「発音は「べちゃくちや」で良いの？」とポツシュ氏から逆に聞かれたことを付記します。次回ECOMMは二〇一二年六月十二日〜十五日にドイツのフランクフルトで開催されます。

りました。今年度も昨年度に引き続きMM事業のお手伝いをさせていただきます。今度のこととなっております。当社は今後とも公共交通の利用促進、過度なクルマ依存からの脱却を目指すとともに、少しでも地域社会への貢献ができるよう努めてまいります。



とやまレールライフ・プロジェクトのロゴマーク